



社会情勢 / 社会課題

日本が生産する花きは、オランダの国際園芸博覧会の品種コンテストで最高得点を獲得するなど世界的に高い評価を得ており、近年、輸出額は増加傾向にある。一方、国内では安価な輸入切り花が増加し、国産シェアの奪還と輸出の拡大が喫緊の課題となっている。このため、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大のための取り組み推進が必要である。

長期ビジョン

東京オリンピック・パラリンピック2020をきっかけに、花き生産農家や花き関係業界が力を結集して、日本の高品質な花きを世界へアピールするとともに生産・輸出の拡大を加速させていく。

東京大会での役割

選手のストレス軽減、疲労回復効果を期待して、会場や選手村などを花で装飾するとともに、世界最高水準とされる日本の花で街や会場を彩り、日本らしさが演出された印象的な大会を実現する。

3つの手段

1 ソーシャルインパクト
夏場でも日持ちする国産花きの品質の高さを世界へ発信する。

2 大会ホスピタリティ
花や緑の視覚的な華やかさに加え、癒やし効果などの心理的側面にも配慮した居心地の良いおもてなしを提供。

3 シェアードバリュー
新たに開発した技術を国内他地域へ展開することにより、国内花き産業の振興を図る。

2020年に向けたコンセプト

Flower Innovation 2020

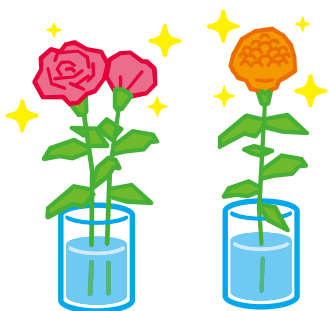
ジャパンフラワープロジェクト

最先端技術を活用し、夏でも多くの国産の花で街に彩りを

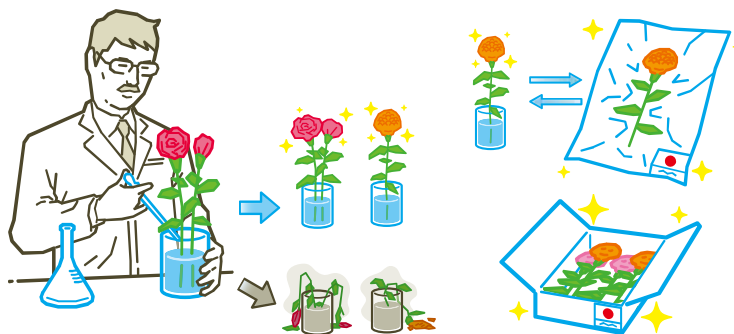
技術の概要

日本の優れた花や緑をいっそう多くの人に楽しんで頂くための長期品質保持や安定生産技術

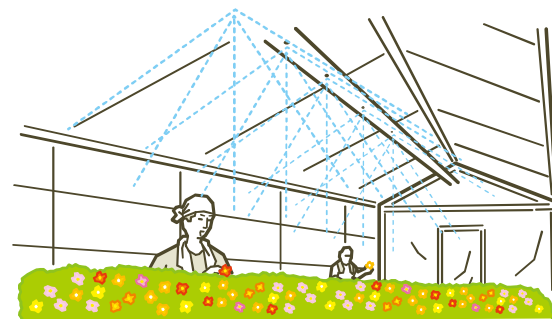
開花が早く、日持ちする
品種を数多く開発



切り花を長持ちさせる品質保持剤や
運搬用段ボールなどの開発



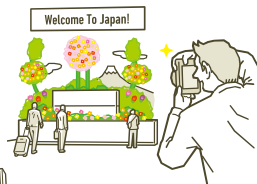
暑い夏場でも
花きを安定して生産する技術の開発



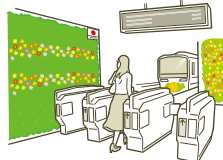
大会期間中の演出例

Scene1 国際空港

到着ロビーでは
和を感じる
花と緑の
巨大ディスプレイ



駅の改札口や
ホームも花や緑で
おもてなしの演出



Scene2 街の中

沿道には応援用の
花がいっぱい



花や緑の癒し効果で
選手や来訪者も
リラックス



Scene3 競技会場

競技会場の周辺も
花や緑で包まれ
心地よい環境に



日本らしさあふれる
ビクトリーブーケで
表彰式



Innovation for Everyone 2020

